

目次

序

1. はじめに
2. 本報告書における用語解説
3. 研究の流れ

I コレクティブハウジング研究

1章 既往研究レビューと本研究の位置づけ	7
1-1. 目的	
1-2. 方法	
1-3. コミュニティのある集住に関する既往研究	
1-4. コレクティブハウジング関連の既往研究と本研究の位置づけ	
2章 海外の事例	21
2-1. はじめに	21
2-2. フェルドクネッペン - 熟年の居住者による落ち着いた暮らし -	25
2-2-1. 概要	
2-2-2. 事業供給・運営方式	
2-2-3. 生活実態と居住者評価	
2-2-4. 住戸での生活行動・空間満足度	
2-3. フレスタバッケ - 子育てしやすい住環境 -	45
2-3-1. はじめに	
2-3-2. 概要	
2-3-3. 事業供給・運営方式	
2-3-4. 生活実態と居住者評価	
2-4. ツルスツェガン - コーポラティブ所有方式の緩やかな自主管理運営 -	59
2-4-1. はじめに	
2-4-2. 概要	
2-4-3. 事業供給・運営方式	
2-4-4. 生活実態と居住者評価	
2-5. その他の視察事例	71
2-5-1. ソッケンスツェガン - 既存ストックを活かす -	
2-5-2. コルネット - 新しい事業方式—コーポラティブ賃貸 -	
2-5-3. マイバッケン - 既存ストックを活かす -	
2-6. 海外事例のまとめ	80
3章 日本の事例；コレクティブハウスかんかん森	
- 日本初の居住者による自主運営自主管理 -	
はじめに	
3-1. コレクティブハウスかんかん森の概要	81
3-1-1. 計画にあたって	
3-1-2. 建築概要	
3-1-3. 住運営の仕組み	
3-1-4. 調査リスト	
3-2. かんかん森における生活実態と居住者評価	88
3-2-1. 目的	
3-2-2. 調査概要	

3-2-3. 居住者の属性	
3-2-4. かんかん森における生活の実態と評価	
3-3. 共用空間における生活領域の広がり-----	96
3-3-1. 本節の目的	
3-3-2. 調査概要・空間特徴	
3-3-3. 生活行動と空間利用の傾向	
3-3-4. CM有無×平日休日による比較	
3-3-5. 住戸への動線	
3-3-6. 空間構成	
3-3-7. まとめ	
3-4. 専用空間での生活実態と居住者のライフスタイル-----	109
3-4-1. 本節の目的	
3-4-2. 調査概要	
3-4-3. 居住者が所有している生活財	
3-4-4. 居住者別にみる生活実態－生活時間、専用住戸での住まい方、生活財	
3-4-5. 全居住者のライフスタイル	
3-5. 環境配慮行動とエネルギー消費量-----	120
3-5-1. 調査概要	
3-5-2. 調査結果	
3-5-3. まとめ	
3-6. 事業供給方式-----	126
3-6-1. 事業のしくみ	
3-6-2. 事業費	
3-6-3. 入居者コーディネート	
3-6-4. 現在のかんかん森の運営費	
3-6-5. かんかん森の事業手法のまとめ	
3-7. まとめ-----	137
4章 考察-----	138
4-1. 居住者特性と集まって暮らす価値	
4-2. コレクティブハウジングの空間要素と配列、適正規模とゾーニング	
4-3. 事業供給運営方式	
4-4. コレクティブハウジングにおける環境配慮の視点	
Ⅱ 集合住宅ストックの活用モデル試案	
<hr/>	
1章 モデルの位置づけ	
1-1. 既存ストック活用とコレクティブハウジング-----	155
1-2. 社会性・地域性とコレクティブハウジング-----	159
1-3. 都心型モデルと郊外型モデルの与条件と設定条件-----	162
1-3-1. 敷地周辺状況	
1-3-2. 既存建物概要と分析	
1-3-3. 構造変更に関わる条件	

- 1-3-4. 設計に際してのモデル化
- 1-3-5. コレクティブハウジングとしての性格付け
- 1-3-6. 具体的なコモンの機能

1-4. ストック活用型コレクティブハウジングの事業計画-----179

- 1-4-1. 事業の特徴
- 1-4-2. 既存の賃貸集合住宅をコレクティブハウジングに改修する手順
- 1-4-3. 事業収支計画により事業の実施を決断する

2章 モデル提案

2-1. 都心型モデル - DINKS やシングルが暮らすコレクティブハウジング - -----192

- 2-1-1. 都心型モデル設計提案①
- 2-1-2. 都心型モデル設計提案②

2-2. 郊外型モデル - 家族や学生など多様な世帯が暮らすコレクティブハウジング - -----216

- 2-2-1. 郊外型モデル設計提案①
- 2-2-2. 郊外型モデル設計提案②

2-3. まとめ-----244

- 2-3-1. 設計提案による成果
- 2-3-2. 今後の課題

おわりに

資料

コレクティブハウジング研究委員会

- 委員長** 小谷部育子 (日本女子大学 教授) (統括)
- 委員** 小泉 雅生 (小泉アトリエ/首都大学東京 准教授) (Ⅱ部1章、2章)
- 大橋寿美子 (湘北短期大学 准教授) (Ⅰ部2章、3章、4章)
- 伊香賀俊治 (慶応義塾大学 教授) (Ⅰ部3章、4章)
- 櫻井 典子 (日本女子大学 学術研究員) (Ⅰ部2章、3章、4章)
- 田村 誠邦 (株式会社アークブレイン) (Ⅱ部1章、2章)
- 柴原 達明 (集住計画) (Ⅱ部1章)
- 上林 一英 (住宅総合研究財団) (Ⅰ部1章)
- 岡崎 愛子 (住宅総合研究財団) (Ⅰ部1章、2章、3章、4章)

なお、本研究会では以下の方々に調査、分析、執筆のご協力を得た。ここに感謝の意を表したい。

研究協力委員

- 深谷 真理 (日本女子大学大学院) (Ⅰ部1章)
- 川合 敦子 (日本女子大学大学院) (Ⅰ部3章)
- 堀切三紗子 (日本女子大学大学院) (Ⅱ部2章)
- 山口 紗由 (日本女子大学大学院) (Ⅰ部2章、Ⅱ部2章)
- 門脇 耕三 (首都大学東京大学院助教) (Ⅱ部1章、2章)
- 増子 洋 (首都大学東京大学院) (Ⅱ部2章)
- 梁井 理恵 (首都大学東京大学院) (Ⅱ部1章、2章)
- 畑江 未央 (首都大学東京大学院) (Ⅱ部2章)
- 竹之下忠英 (慶応義塾大学大学院) (Ⅰ部3章、4章)
- 甲藤 正郎 (株式会社アークブレイン) (Ⅱ部1章、2章)